

台

風は、大雨、洪水、暴風などをもち、川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべりなどを発生させやすくなります。7月から10月にかけては、日本に接近・上陸する台風が多くなる季節。天気予報や気象情報に注意し、水害や土砂災害に備えましょう。

天気予報や気象情報に注意する

台風や豪雨はある程度、進路や規模などを予測できます。皆さんが早めの防災対策を立てられるよう、気象庁は大雨や台風などに関する防災気象情報を随時提供しています。普段から気象情報に十分注意して、風や雨に対する対策を立てることが大切です。警報・注意報が発表されたときは、気象状況に十分注意し、無理な外出はしないようにしましょう。

川の氾濫や土砂災害などの災害は一気に起こるため、避難が遅れると命にかかわります。天候が荒れてからでは移動も大変になります。特に高齢者や子どものいる家庭は、早い段階から自主的に避難す

避難途中で被災しないために

大雨の中での避難は大変危険です。大雨で音が聞こえにくくなるばかりか、道路などの崩れている箇所を確認することが難しくなります。昭和37年、占冠村に深刻な被害をもたらした大水害は、3名の村民の尊い命を瞬時に奪ってしまいました。内1名は、午後2時頃の帰宅途中に濁流に巻き込まれてお亡くなりになりました。事故現場は、沢水が道路に氾濫し、路床の決壊部分を確認できない状況でした。事故は、決壊部分に足をとられてしまいそのまま濁流に巻き込まれて発生したことが、水害誌『しむかっぶの水害』に記録されています。

水害が発生するとき、土地の形や川の形は変化します。慣れ親しんだ道を過信してはいけません。『道が崩れているかもしれない、道が崩れるかもしれない』ことを念頭に、慎重に避難しましょう。また、夜中など暗い中での避難は、状況を余計に確認しにくくします。可能であれば、なるべく明るいうちに避難しましょう。

することも検討しましょう。暴風や浸水で避難場所までの移動が危険な場合は、家の中のできるだけ安全な場所（崖から離れた2階の部屋）で待機したり、近隣のできるだけ頑丈な建物に避難することも検討しましょう。

1時間降水量から判断する危険度

天気予報では「1時間あたり〇〇mmの降水量」という表現で、雨の強さを伝えていますが、具体的な危険度はご存知でしょうか。雨の強さの目安は次のとおりです。天気予報で報道される降水量から危険度合いの目安を判断できるようにしましょう。

強い雨

1時間あたりの降水量が20〜30mmのどしゃ降りの雨。側溝や下水があふれ、小川の氾濫、崖崩れの心配があります。

激しい雨

1時間あたりの降水量が30〜50mmのパケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われ

土砂災害から命を守る

土石流や地すべり、がけ崩れなどの土砂災害は、集中豪雨などで地盤がゆるむことで発生しやすくなります。土砂災害の被害をできるだけ少なくするためには、地域に住む皆さんが土砂災害の危険をいち早く察知し、すばやく行動することが重要です。占冠村は山に囲まれた村です。土砂災害警戒情報や目視により危険信号を捉えた場合、直ちに避難しましょう。

川がにごる

川の流れが濁り、流木が混ざり始めると、上流で山崩れが発生している可能性があります。

水位が下がった

雨が降り続けているのに川の水位が下がると山崩れが川の水をせき止めている可能性があり、氾濫の危険があります。

亀裂が走る、石が落ちてきた

山の木が傾いたり斜面に亀裂が走った場合や小石などがパラパラと落ちてきた場合、

非常に激しい雨

1時間あたりの降水量が50〜80mmの滝のように降り続き、傘は全く役にたたなくなり、土砂崩落などの災害も起こりやすくなります。

猛烈な雨

1時間あたりの降水量が80mm以上の激しい雨で、息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。

避難場所・避難経路の確認を

安全に避難するためには、どこに、どの道を通って避難すればよいのか、安全な避難場所や避難経路、避難方法を事前に確認しておくことが重要です。自分が住んでいる地域や避難経路の途中に氾濫する可能性のある河川がないか、浸水する場所がないか、村が配布しているハザードマップで確認し、可能であれば実際に歩いてみて周囲の安全を確認しておくことをお勧めします。ハザードマップは今年度中に更新予定であり、新しいものが完成したら配布します。

地すべりや山崩れの前兆もありません。

湧き水が増える

斜面や崖から水が噴出した、湧き水が急に増えた場合は、地すべりや山崩れの前兆かもしれません。

地鳴りがする

地鳴りの音が聞こえてきた場合、山崩れ発生の可能性があります。

井戸水がにごった

普段澄んでいる沢や井戸の水がにごってきた場合、上流の沢の山崩れが原因かもしれません。



過去に村で発生した水害と降水量

平成28年トマム土砂崩落

日	降水量 (mm)
8月17日	108
8月18日	0
8月19日	6
8月20日	19
8月21日	74
8月22日	34
8月23日	66
8月24日	0
8月25日	0
8月26日	36
8月27日	0
8月28日	0
8月29日	0
8月30日	107
8月31日	0

表の太字部分は、土砂崩れや川の氾濫など水害が発生した日です。台風や豪雨などは、ある程度規模などを予測することができます。平成28年は、8月17日～31日までに、北海道に4個の台風が上陸・接近しました。集中豪雨などで地盤がゆるむと、土砂崩落等が発生しやすくなります。

気象情報に注意し、適切な行動をとることが大切です。

平成13年水害

日	降水量 (mm)
9月5日	0
9月6日	0
9月7日	30
9月8日	10
9月9日	21
9月10日	29
9月11日	222

昭和37年水害

日	降水量 (mm)
7月29日	37.2
7月30日	27.3
7月31日	17.8
8月1日	5.9
8月2日	41.9
8月3日	100.5
8月4日	59.8

防災情報の伝え方が5段階に

住民の皆さんが災害発生の危険度を直感的に理解し、的確に避難行動ができるようにするため、避難に関する情報や防災気象情報等の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えしています。「警戒レベル3」が発令されたら、高齢の方や障がいのある方など避難に時間のかかる方やその支援者の方は避難し、それ以外の人は避難の準備をしてください。「警戒レベル4」が発令されたら、対象となる地域住民の方々は全員避難してください。警戒レベルが発令されていなくても、命の危険を感じたら速やかに避難しましょう。『大丈夫だろう』という過信は禁物です。

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害の発生を把握した場合に、災害発生情報を村が発令します。
警戒レベル4	速やかに避難先へ避難しましょう。	避難勧告、避難指示を村が発令します。
警戒レベル3	避難に時間を要する人とその支援者は避難をしましょう。	避難準備・高齢者等避難開始を村が発令します。
警戒レベル2	避難に備え、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報・大雨注意報等を気象庁が発表します。
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報を気象庁が発表します。